

平成18年度

第2回「鳥取市政懇話会」地域づくり部会

日時:平成18年9月1日(金)午後1時30分～3時30分

場所:鳥取市役所本庁舎4階 第2会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

「中山間地域(旧町村地域)の振興」について

① 鳥取自動車道開通後の振興策

② 中山間地域(旧町村地域)のコミュニティの充実・強化

・「合併地域活性化推進事業」について(報告)

3. そ の 他

4. 閉 会

(木村 肇 委員)

	意見、提案
中山間地域 全体	<p>1. 鳥取自動車道開通後の中山間地の振興策</p> <p>活性化のための中心目標は、都市と農村の交流であり、既存の地域資源を活用した振興策が望まれる。</p> <p>(1) 長期的振興策</p> <p>(イ) ヘルスツーリズムの導入 私たちを取り巻く社会において、健康問題が大きくクローズアップされ、旅行を通じて健康を見直す、ヘルスツーリズムの導入が今後脚光をあびるのではないかと考える。</p> <p>(a) 農業体験(グリーンツーリズム)、漁業体験(ブルーツーリズム)旅行を通じて健康維持増進。</p> <p>(b) 保養(療養を含む)を目的とした温泉浴、森林浴旅行。</p> <p>(c) 医療的な健康増人を目指す「良食ツアー」。(医食同源) 鳥取市には温泉があり、自然も豊かである。特に、森林は地域の大半を占めており、森林の持つ「癒し効果」を活用し、森林浴ウォーキングコースなどを設定し、かいた汗を温泉で流してリラックスする、(森林浴+温泉)旅行タイプが期待される。(歴史、文化財町並み、コースなどもあげられる)</p> <p>(ロ) 中心市街地における近隣型商店街の振興は、周辺の中山間地の活性化にとって無縁ではない。 ・最寄りの品中心のありふれた近隣商店街(中山間地の特産品出店等) ・定期的安値市、高齢者ファッション市、フリーマーケット等 (「市」の楽しさを経験する)</p> <p>(2) 短期的振興策</p> <p>(イ) 食の祭典(イベント)の時期を定めて開催する。 中山間各地の有機産品とその加工品に加えて、海産物を一堂に集めて「市」や「縁日」を開く。</p> <p>(ロ) 旅行会社との提携による、買い物ツアーを定期的にセットする。</p> <p>(ハ) 地域の年間を通じたイベント暦を整備し、定期的に発行し配布する。</p> <p>(3) インフラ整備について</p> <p>(イ) 道標の整備(国県道から市町道、農道へのルート表示が<u>十分でない</u>)</p> <p>(ロ) 観光施設への案内表示の再点検及び整備</p>

(田中 仁成 委員)

	意見、提案
中山間地域 全体	<p>○市街地と中山間地の交流の促進(旧町村単位、町内会単位での文化、スポーツ、特産品交流)</p> <p>○旧町の特産品の交流フェアの開催(持ち回りでそれぞれの地域自慢大会のようなイベント)</p> <p>○小学校レベルでの合同文化発表会(スポーツ大会のみならず、地域文化の伝承として)</p> <p>○「田舎体験ツアー」の実施(姉妹都市、姫路や京阪神の親子に呼びかける)</p>

3地域からの報告を踏まえ、中山間地域の振興策についての意見、提案
(特に鳥取自動車道開通後)

(西尾 珠美 委員)

	意見、提案
中山間地域 全体	<p>3地域からの報告を踏まえて、中山間地域の振興策について</p> <p>各々の地域のもつ特徴を活かし、課題を克服しながら地域づくりに取り組まれています。インパクトのある宣伝力が弱いと思います。様々なメディアを使ってPRするのは勿論ですが、地域ごとにしているだけでは、効果はなかなかあがりません。</p> <p>姫鳥線開通を機に集客力の増加をはかるためにも地域の更なる活性化、発展のためにも地域間で連携した取り組みをし、情報発信をしていくことが大切です。</p> <p>例えば</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各地域で作られるパンフレットに、地地域での取り組みも紹介する。 2. 1地区1品の得意(自慢)料理を作り、グルメマップを作成する。 3. 体験工房マップを作成する。 4. 鳥取東部地区全体のわかりやすい観光案内マップを作成する。電化製品のカタログのように各地域の特徴を統一したマークにして地図上に並べる。海水浴、温泉、スキー、登山、キャンプ等また、特産品もマークにしてどこに何があるかわかるようにする。 5. 専門知識や企画力のある観光プランナーやコーディネーターの提案を聞く。

3地域からの報告を踏まえ、中山間地域の振興策についての意見、提案
(特に鳥取自動車道開通後)

(福島 猛夫 委員)

	意見、提案
佐治町地域	<p>① 3地域の中では、最も、関西圏に近い位置にある。自然とのふれあいを求めている都市住民に農業体験や田舎料理(自然食品が中心)等を通じて、心身をいやしてもらい「グリーンツーリズム」を中心対策とすることが、効果的である。</p> <p>② 二十世紀梨も思い切って、10月の出荷とすれば、希少価値がでて、高値販売とされないでしょうか。あるいは、台湾等への輸出用に特化できないか。有名産地の出荷が9月中旬で終わった後、追っかけるように、下旬に出すから、値崩れを起こしているのではないのでしょうか。</p> <p>③ それと、どうしても必要なのが、若者定住のための企業誘致です。</p> <p>④ これは旧八頭郡全体の課題でもあります。 インターチェンジが予定されている「河原」あたりに、数社程度の誘致が出来る商品(用地)を確保すべきです。そこら辺りであれば、関西圏の企業も、アクセスの面で魅力をもつはずで。</p> <p>⑤ 問題は、用地の販売価格でしょう。鳥取は、地方の割には地価が高いので、そこは、行政の政策課題として、対応すべきです。</p>
鹿野町地域 鬼入道地区	<p>① 「トライアルの里」づくりは、危機感を持った住民による地域づくりの手本でしょう。</p> <p>② 「グリーンツーリズム」を中心とした活性化対策は、とても良いと思われます。</p> <p>③ それに、いやしを与える鹿野温泉やグルメの鹿野そば打ち体験等と連携した組織づくりをすれば、都市住民に一層の癒しを味わってもらえ、地域住民との交流促進、ひいては、地域活性化につながると思われる。</p>
青谷町地域 (日置地区)	<p>① 佐治町地域と同様に「グリーンツーリズム」対策が有効的である。</p> <p>② それに、和紙工房での和紙すき体験や弥生人の素晴らしい知恵と生き方が実感できる青谷上地寺遺跡、そして酒津漁港の海の幸(白いかの刺身や焼きさばなど)等と連携した組織づくりが必要です。</p> <p>③ そうすれば、佐治町や鹿野町にない青谷独自が持つ環境とグルメに、都市住民は、満足感と心を癒すを覚え、地域住民との交流促進が図られる。</p>
中山間地域 全体	<p>① 都市の人々、とりわけ、定年退職後の都市住民は、自然とのふれあい安らぎのある生活体験を求めていると言われている。</p> <p>② 鳥姫線の開通は、大阪、神戸等のこうした都市住民のニーズを本県の中山間地域に迎えるチャンスとし、交流促進による活性化への道づくりを目指すべきである。</p> <p>③ その方策としては、本県中山間地域での農作物の栽培体験や収穫の喜び、二十世紀梨やびわ、りんご等のオーナー果樹園の導入と家族ぐるみでのもぎとり体験やその喜び等を通じた「グリーンツーリズム」を中核対策とすることが効果的である。</p> <p>④ それに加えて、地域の田舎料理や温泉、海の幸などを連携して提供すれば、健康志向の強い中高年層には、満足感を与えるはずである。</p> <p>⑤ さらに、地域の人々が、暖かく迎え入れる気持ち、それは、あいさつの一言さえあれば、良いのです。これが、一番、大切なのです。</p>

3地域からの報告を踏まえ、中山間地域の振興策についての意見、提案
(特に鳥取自動車道開通後)

(三田 三香子 委員)

	意見、提案
佐治町地域	<p>「⑤し」、なんて、よく考えておられて、取り組みの熱心さが伺えます。佐治谷ばなし、語り部も増え”元気”の様子。狂言への発想もおもしろい。是非舞台を見てみたいです。佐治の人・地元の人で演ずる、演出するまで発展させ、おもしろ話の郷として、全国交流、発信出来るといいですね。また、語り部は子どもにも是非伝承を。</p> <p>アストロパークのランキングがあと一步。是非とも全国一に。2位では勿体ない。運営費のバックアップが必要。光るものがあれば、相乗効果で「⑤し」の輝きが増してくるでしょう。</p>
鹿野町地域 鬼入道地区	<p>何と言っても若者自らが自立し、元気なのがいいですね。市長のマニフェストの中にも「若者会議」の新設がありますが、鹿野の若者の力を他の地域の若者も学べる様「会議」に期待したいですね。</p> <p>鹿野では鬼入道のトライアルのみならず、ミュージカルや太鼓など文化面でも若者の活躍が光っています。この勢いを大切にしたいものです。「トライアルの里」として若者を信じ、集落が全面協力された事が、成功につながっていますね。全国大会のレギュラー化、マスコミへのPRでますますの活性化を！</p>
青谷町地域 (日置地区)	<p>「青谷和紙工房」は今のままでは勿体ない。一時は全国や世界の現代作家による作品展もあり期待していましたが、現在では難しいようですね。しかし、あきらめないで、全国や世界に発信出来る施設であってほしい。</p> <p>作家を呼ぶ新情報を得る。新製品の開発・・・などにより、当初の目的である産業振興に結びつく存在にすべきです。せっかく「上寺地」という国レベルの顔も現れたことですし。他の顔とも合わせて、和紙工房を生かしたいものです。ただ現状では難しい。鳥取市として施設の方向性をどう考えるかが問題では。</p>
中山間地域 全体	<p>鳥取自動車道開通と中山間地域の活性化は、直接的には大きな影響力はないと思う。確かに時間距離短縮は必要なことは言うまでもないが、それよりも問題は、どれだけその地域が魅力あるものであるかだと思う。少し時間がかかっても魅力あるものであれば輝くであろうし、近くても興味がなければ失せる。</p> <p>施設なり、イベントなりを仕切るのは、指定管理者の場合が多い。経費削減がかなりのウエイトを占めており、思い切った展開が出来ないのが現状ではないだろうか。</p> <p>本当にいいものをやろうとするなら、指定管理者おまかせではなく、市も一緒になって盛り上げていこうという姿勢が必要と思う。</p> <p>補正予算もOKといった柔軟性も欲しい。また、市地域振興室(企画調整課)のコーディネートを期待します。</p>

合併地域活性化推進事業

1. 目的

合併地域のさらなる活性化を図ることを目的に創設する。

2. 予算額 4,200千円

<内訳>

公民館数

- ・中央公民館 1館 2地域(福部・佐治) 400千円/地域
- ・地区公民館 3館 2地域(用瀬・鹿野) 500千円/地域
- ・ // 5館 4地域(国府・河原・気高・青谷) 600千円/地域

3. 事業の構成

(1) 総合支所機能強化事業の実施

① 地域振興機能の強化

- ア 総合支所「地域振興プロジェクトチーム」の設置
- イ 地域審議会との連携による地域振興策の樹立・実施
- ウ 地域住民との協働の地域づくり実施主体の育成・支援

② 広聴機能の強化

- ア 総合支所「支所長相談会」の実施 6月実施
- イ 総合支所「市民の声」市長報告制度の整備
- ウ 総合支所「集落座談会」の開催

③ 広報機能の強化

- ア CATVを活用した「総合支所コーナー」の放映
- イ 「総合支所だより」のリニューアル
- ウ 「集落座談会」での支所の取り組み等PR

(2) 地域審議会の活性化

地域住民の意向把握に努め、プロジェクトチームとの連携を図り、地域課題に対応する住民との協働による地域振興策を樹立する。

(3) 地域振興ワークショップの開催

公民館単位に、地域の活性化策をテーマとした地域住民によるワークショップを開催し、地域振興策に反映する。

4. 各総合支所の地域振興策の検討状況（概要）

【平成 18 年 8 月末現在】

【国府町総合支所】

テーマ	「公衆道徳を守り、安心して暮らせる、美しい郷土を築きましょう」
内容	<p>地域住民が快適でゆとりと潤いのある生活を営むため、自然との共生に配慮し、何ものにもかえがたい自然環境のもとで緑の豊かな地域づくりを進めるとともに、安全で快適な生活環境づくりを推進し、「安心して暮らせる美しい郷土」を次世代に引き継ぐ取組みとして、住民、各種団体、行政が協働して事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 環境美化・ごみの減量化等 ② 農地・山林の保全 ③ 防犯、防災、暮らしの安心 ④ 公衆道徳（モラルやマナー・ルール）を大切にする地域づくり ほか

【福部町総合支所】

テーマ	「地域の個性を活かしたまちづくり」
内容	<p>福部町では平成 15 年度より地域に愛着を持った人たちが集まり、都会の人たちに海も山もある田舎の豊かな自然を満喫してもらおうと「ふくべ楽居大学」を立ち上げた。「ふくべ楽居大学」は、住民自らが主体となって事業運営しており、地域住民が活性化のために取り組んでいる事業でもあり、問題解決や事業推進を図るため活動支援を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「ふくべ楽居大学」を町内 21 地区の個人・グループに拡大 ② 体験メニューの多様化 ③ 体験希望者のニーズとの適合を図る。

【河原町総合支所】

テーマ	<p>安心で安全なまちづくり 「住んでいて良かったと言い合える河原町を目指す。」</p>
内容	<p>地域に暮らす住民どうしが、お互いに声を掛け合い、助け合っている風土作りからはじまり、特に最近では子どもたちの安全が脅かされている現状から、地域で犯罪をおこさせない防犯の意識づくりを地域振興と位置づけて取り組み、これらの取り組みを発展させ、地域における各種の自慢を掘りこす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 町内諸団体の協力の下防犯連合組織を立ち上げる。 ② あいさつ運動の展開 ③ 町内諸団体及び町内ボランティア有志による地域パトロール ④ 地域自慢掘り起こし事業 ほか

【用瀬町総合支所】

テーマ	「水と人との調和した地域づくり」
内容	<p>中津美溪谷（滝）、板井原溪谷（甌穴）、ふれあいの水辺・瀬戸川沿いの小径等地域の資源を活用し、住民と行政の協働により、水と親しめる住環境づくりを推進する。</p> <p>① 水と人との暮らし写真収集・展示 ② 川との思い出エッセイ・俳句募集 ③ 案内板の設置 ④ 地域振興マップの作成（観光ポイント、ウォーキング、四季の花等） ほか</p>

【佐治町総合支所】

テーマ	「国土施策創発調査事業」の継続
内容	<p>佐治町の地域資源の代表は「五し」である。現在まで「五し」をテーマに地域づくりを進めてきたが、大きな成果をあげるまでには至っていない。</p> <p>地域づくりは、地域活性化について経済の側面から議論されることが重要であり、本事業を契機として「売れる」地域資源を発掘し、事業化する。</p> <p>① 地域内外の人が交流しながら活動を体験する機会の創出 ② 川や山林の自然環境保全 ③ 地域資源を生かした加工品や郷土料理の商品化 ④ 地域資源の販路開拓 ほか</p>

【気高町総合支所】

テーマ	住民を主体とした活動への協力あるいは地域内の資源を掘り起こすことにより、地域コミュニティの活性化を図る。
内容	<p>近年希薄化してきている住民同士の連帯感を深めるため、集落内の話し合いと共同作業の場を提供するとともに地域を見直すきっかけとし、出来上がったものを町内に配布して、今まで気がつかなかった事柄を再発見・再認識してもらおう。また、地域審議会でもどのようなことが協議され、どうなっていくのか、合併で誕生した地域審議会を、もっと身近に感じてもらうために地域審議会だよりを配布する。</p> <p>① イベントカレンダーの作成 ② 気高町41集落の自慢を探す。 ③ 地域審議会だよりの配布</p>

【鹿野町総合支所】

テーマ	<p>「花いっぱいの美しいまちづくり」 ～町自慢 花のあるまちづくりの推進～</p>
内容	<p>*住民が誇りに感じ、たくさんの人たちに愛されるまちづくり。 *住民が生き生きと暮らし、訪れる人たちはほっとできる、自ら輝ける「四季“薫るまち”鹿野」を目標とする。</p> <p>① 集落毎に四季を通じて花の植樹による環境美化 ② 田園景観（そば等）、山村景観（ホタル等）、街なみ景観（山野草等）にあった「個性あるまちづくり」を創出する。 ③ ホタルの養殖 ④ 花街道（コスモス街道等）の復活 ほか</p>

【青谷町総合支所】

テーマ	<p>（検討中） ア 次代に残そう青谷の魅力、自然 イ 育てよう 郷土の愛着と誇り</p>
内容	<p>青谷地域は因州和紙、青谷上寺地遺跡、鳴り砂、海山の豊かな自然など、地域資源が豊富。このような青谷の自然、魅力を次代に残していく活動が青谷地域の振興になると思われる。青谷地域住民が青谷を知り、私たち地域住民の手で青谷の自然、魅力を次世代に残すべく様々な活動をする。</p> <p>① 『ゆめ灯籠流し』を青谷地域の伝統行事にする。 ② 美化運動 ③ 青谷探訪コースの確立 ④ 井手が浜 鳴り砂保全 交流活動 ほか</p>

資料 3

平成18年度鳥取市政懇話会 第2回地域づくり部会

お住まいの地域のコミュニティの現状または、今後の中山間地（合併地域）の充実・強化に対するご意見・ご提案について記載をお願いします。

お名前〔 神部 みゆき 委員 〕

今後の中山間地の充実・強化について

各地域、それぞれ独自の地形、文化、人間性があるので一つの提案がすべての地域に歓迎されることはないので、地域のリーダーが住民の思いや希望に基づいて指導できるよう、民間レベルでリーダー養成をしていく事が、活性化の早道ではないでしょうか。

お名前〔 西尾 珠美 委員 〕

1. 農産物の販売所に地域の特色を書いた地図を置く。また、販売している野菜の栄養、調理方法等の情報に地域の情報を加えたパンフレットを作成する。
2. 一地区一品の特徴的な料理を作り紹介する。
3. 各地区の取組みを様々な場所へ展示する。（市民図書館や体育館の通路や屋内駐車場）
4. 農作物販売所の横に「かろいち」の様に食事が出来るところを作る。

お住まいの地域のコミュニティの現状または、今後の中山間地（合併地域）の充実・強化に対するご意見・ご提案について記載をお願いします。

お名前〔 木村 肇 委員 〕

中山間地のコミュニティの強化、充実について

(1) 地域活動を中心とした活性化対策への支援強化

(イ) 住民の自主活動（納涼祭、運動会、環境保全活動、研修会等）への支援強化。

(ロ) 集落規模での活動への支援

(a) ふれあいサロンの拡充、強化

現在福祉関係が進めているふれあいサロンの制度を、よりきめ細かな単位まで拡大し、少人数でも参加できる地区を増やす。また、助成制度もこれにあわせて充実する。

(b) 地域通貨の活用

地域の相互扶助機能が低下してきている。地域通貨制度を活用し、お互いが遠慮なく扶助を受けたり、提供したりすることが出来ることによって、絆が強まり、コミュニティの増進にもつながる。

(ハ) 公民館活動の円滑な実施体制

従来から公民館は、生涯学習の拠点であるとの考えが中心であったが、今日では福祉関係、自治会関係の活動拠点にも位置付けられており、お互いの業務が円滑に実施できるようシステムの構築が望まれる。

(2) 地域全体としてのコミュニティの強化

今後情報化の推進は避けて通れない状況にあるが、中山間地では遅れている。特に、インターネットの双方向性の利点を活用した、誰でも、どこでも、いつでも、様々に開かれる意見交換の場（コミュニティ）に参加出来るようにすることが、コミュニティの強化につながると考えられる。インフラ整備は進められているが、技術的アドバイスが可能となるような支援策を講ずることが望まれる。